

伴委員の出張報告

令和5年9月13日
原子力規制庁

1. 趣旨

本議題は、伴委員が令和5年9月5日から7日まで、フランスに出張した結果について報告するものである。

2. 結果概要

伴委員は、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）の「ステークホルダー関与に関する第3回NEAワークショップ：意思決定における最適化^{*1}」に出席し、二日目のセッション5「意思決定プロセスの第3段階：意思決定のステークホルダーへの伝達、実施及びプロセスからの学習^{*2}」及び三日目の閉会セッションにおいてパネリストを務めた。

当該ワークショップは、令和5年9月5日から7日の3日間においてフランスのパリで開催され、我が国を含めて計29か国より約120名が参加した。

参加者は、1) 意思決定における最適化についての一般的かつ実践的な理解の深化、2) 最適化プロセスのために多角的議論を実現する枠組みの基盤の明確化、3) 市民社会を含めた包括的なステークホルダー関与支援及び関連ツールとアプローチの特定 について議論を行った。

以上

*1: Third NEA stakeholder involvement workshop on optimisation in decision making

*2: The third phase of the decision-making process: communicating decisions to the stakeholders, implementing them and learning from the process